

港町交流で深まる「絆」

イタリア キオツジャヤ市との文化交流

今月で東日本大震災から5年がたとうとしていますが、水産加工業の販路などが戻らない状況が続いています。

そこで、新たな食文化の導入や海外との技術交流により、今までにない新たな製品開発をしながら、地酒などの特産品をPRしようとイタリアのベネチア湾に面するキオツジャヤ市との文化交流会が開催されました。今後も交流と交易を促進するため、昨年10月に丹野六右衛門さん(丹六園店主)を代表理事として「塩竈・キオツジャヤ友好協会」が設立されました。事務局長である酒井敬一さんは「文化交流会でキオツジャヤ市を訪問した際、市全体で歓迎してくれて感激しました。市民同士がお互いのことを理解し合い、港町として共通点が多くある両市の良さを取り入れていけるよう、当協会がパイプ役になって交流を続けていきたい」と話してくれました。

キオツジャヤ市は古くから港町として栄え、観光船ターミナルがあるなど本市との共通点が多いまちです。

今月、キオツジャヤで東日本大震災追悼イベントとして桜の植樹を行います。異国の地でも既に「絆」が生まれています。



▲地場産品などを紹介する酒井さん



キオツジャヤ市
イタリア
キオツジャって
どんなところ？
イタリア北部ベ
ネチア湾に
ある人口約5万
人の港町

「キオツジャヤ市へ訪問 「食の文化交流会」

塩竈市民を中心とする10人の有志が、昨年7月末にキオツジャヤ市を訪れ、文化交流を行いました。その際、市街地でのパレードや記念品が贈られるなど盛大に歓迎されました。食文化などの情報共有や水産加工技術の情報交換をし、今後の展開に期待が持てる交流会となりました。



現在、会員45人で随時会員を募集しています。詳しくは「塩竈キオツジャヤ友好協会事務局」に問い合わせください。

問 塩竈・キオツジャヤ友好協会事務局
メール shiogchiog@gmail.com

景観コラム 『景観十年、風景百年、風土千年』

市民がつくる新たな「塩竈の都市景観」

これまで本市の歴史を振り返りながら都市景観について紹介してきましたが、自然景観や歴史ある建物を残していくためには市民の皆さんの協力が重要です。

そのひとつとして、1月15日にコミュニティカフェとして御釜神社向かいにオープンした「旧ゑびや旅館(元松亀園)」があります。この建物は、明治初期に旅籠(はたご)として建てられ、3階の天井には桜の絵が残る貴重な歴史的建造物です。東日本大震災の津波被害で解体する予定でしたが、NPO団体が保存と活用に取り組んでおり、新たな観光スポットとして期待が高まっています。

問 都市計画課まちづくり推進係
☎364-2510

多くの方々からご意見をいただいて策定している景観計画でも、市民と市民団体、事業者、行政の役割を掲げていきます。塩竈の長い歴史の中で培ってきたものを、景観資源として生かせるように考え、次の世代につなげていきましょう。

「景観コラム」は今回が最終回です。今後もさまざまな機会でも、景観計画をお知らせしていきます。



▲おしゃれなコミュニティカフェとして生まれ変わった「旧ゑびや旅館」

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。

防災行政無線確認電話 ☎364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1MHz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

【塩竈市の人口】 H28.1.31現在

住民基本台帳調べ (前月比)	
人口	55,477人 (-30人)
男	26,473人 (-38人)
女	29,004人 (+8人)
世帯数	23,040戸 (+41戸)